

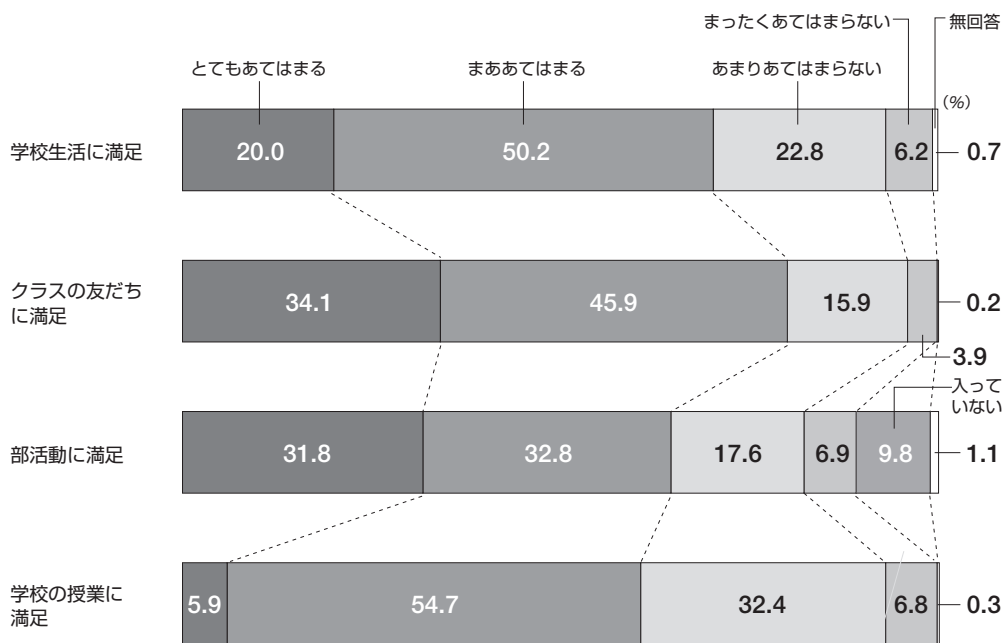
1 学校生活に対する満足度

生徒の7割が「学校生活に満足している」と回答。また満足度の内容別にみていくと「クラスの友だちに満足している」が「とてもあてはまる」「まああてはまる」を合わせて8割と最も高く、「学校の授業に満足している」や「部活動に満足している」は6～7割。生徒は学校生活におおむね満足しているようである。



あなたには、次のことがどれくらいあてはまりますか。

生徒調査



注：サンプル数は2874名。

神奈川県の公立中学校の生徒が、学校生活にどの程度満足しているのか見てみよう。まず「学校生活に満足している」の質問をみたところ、「とてもあてはまる」「まああてはまる」を合わせて7割の生徒が満足していると回答している。さらに満足度の内容別にをみていくと、最も回答の比率が高かったのは「クラスの友だちに満足している」の項目である。「と

てもあてはまる」「まああてはまる」を合わせて8割の生徒が満足している。次いで高かったのが部活動で、「とてもあてはまる」「まああてはまる」を合わせて64.6%、さらに「学校の授業に満足している」が60.6%と続く。神奈川県の公立中学校の生徒は、クラスの友人や授業、部活動などすべてを含め、学校生活全体として満足しているようである。

2) 授業の様子

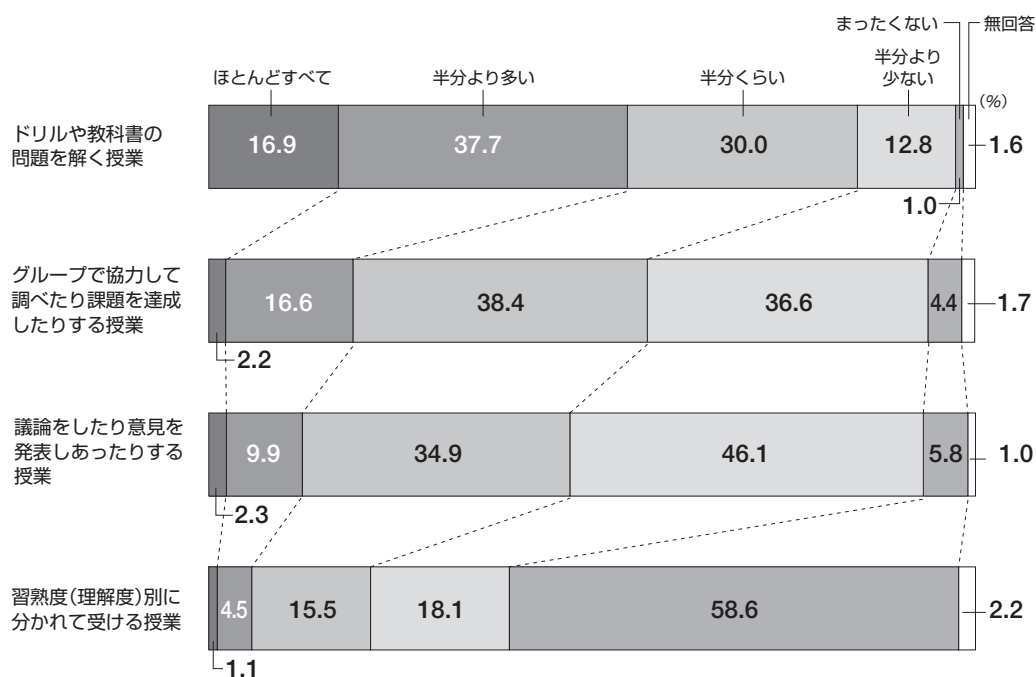
授業の様子に関する回答で特に多かったものは「ドリルや教科書の問題を解く授業」で、半分以上*と回答した生徒が8割台。その他で多かったものは「グループで協力して調べたり課題を達成したりする授業」や「議論をしたり意見を発表しあったりする授業」で5～6割。「習熟度別に分かれて受ける授業」は2割。

* 半分以上…「ほとんどすべて」+「半分より多い」+「半分くらい」。



あなたが中学校で受けている国語・社会・数学・理科・英語と総合学習の授業の中で、次のような授業はどれくらいありますか。

生徒調査



注：サンプル数は2874名。

授業の様子についてたずねたところ、「ドリルや教科書の問題を解く授業」について、「ほとんどすべて」「半分より多い」「半分くらい」と回答（以下、半分以上）した生徒は8割台であった。生徒の認識によれば、主に演習形式のものが多くわかる。その他で回答比率が高かったものは「グループで協力して調べたり課題を達成したりする授業」や「議論をしたり意見を発表しあったりする授業」

で、半分以上と回答した生徒は5～6割であった。一方、「習熟度別に分かれて受ける授業」について半分以上と回答した生徒は2割にとどまった。「半分より少ない」という項目を含めても4割程度で、積極的に取り入れられているわけではなさそうである。ただし、今回の結果が示す特徴はあくまで神奈川県に限定したものである。

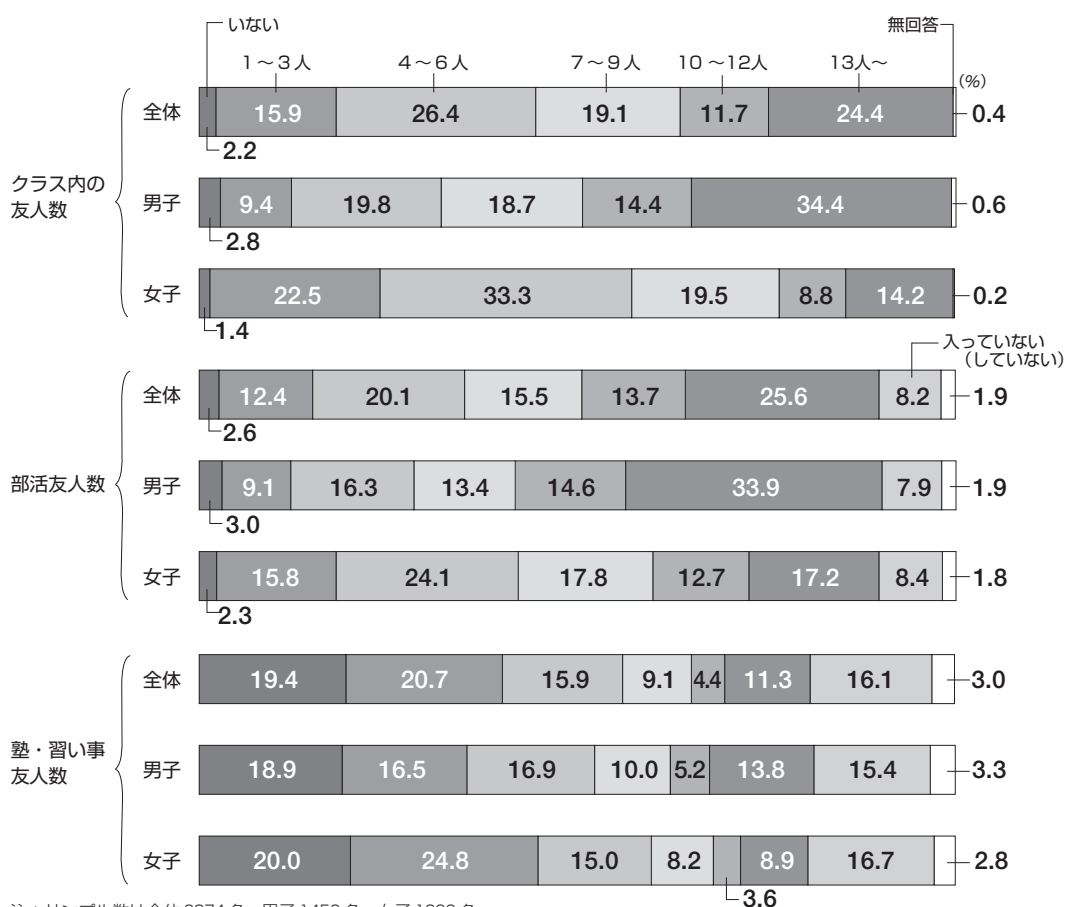
3) 友だち関係① (友だちの人数)

クラスの親しい友人の人数は「4～6人」が26.4%と最も多く、次いで「13人～」が24.4%と多い。中学生は大きく分けて、少人数で友だちづきあいをするタイプと多人数で友だちづきあいをするタイプがある。また全体の傾向を性別でみたところ、女子は少人数、男子は多人数で友だちとつきあいをする傾向がみられる。



あなたには、親しい友だちがどれくらいいますか。

生徒調査



注：サンプル数は全体2874名、男子1452名、女子1399名。

友だちの人数をたずねたところ、クラス内では「4～6人」と答えた生徒が26.4%と最も多く、次いで「13人～」が24.4%と多い。中学生の友だち関係には、大きく分けて、少人数で友だちづきあいをするタイプと多人数で友だちづきあいをするタイプがあるようである。また部活動内の友人数をみると、女子の

「10～12人」「13人～」の項目の比率が、クラス内友人数の同項目と比べ高くなっている。少人数での友だちとつきあうことの多い女子にとって、部活動は集団で友情を育む貴重な場になっているのではないか。一方、塾や習い事は「いない」が2割で、性別にかかわらず友だちづきあいは少人数が多い。

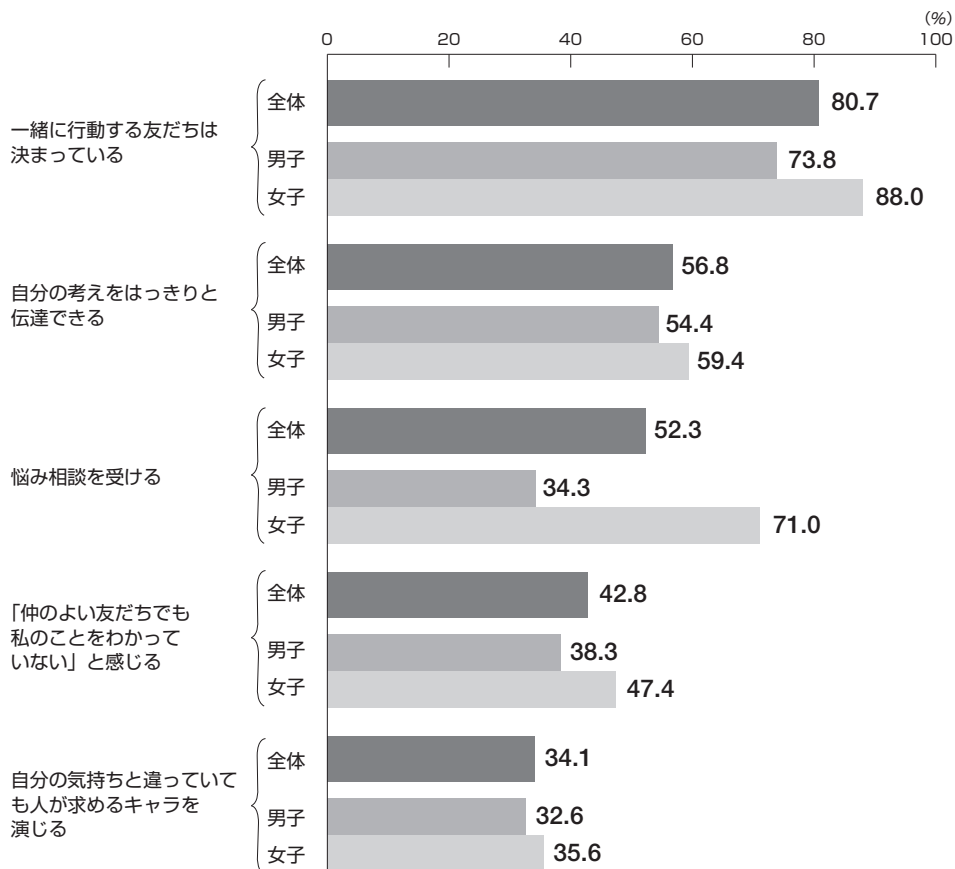
4) 友だち関係② (友だちとのかかわり)

男子に比べ女子の友だちづきあいは固定的で密接なかかわりが多いが、一方で「『仲のよい友だちでも私のことをわかっていない』と感じる」や「自分の気持ちと違っていても人が求めるキャラを演じる」など、心の内を明かさな側面もみられる。



あなたには、次のことがどれくらいあてはまりますか。

生徒調査



注1: 「とてもあてはまる」 + 「まああてはまる」の%。

注2: サンプル数は全体 2874名、男子 1452名、女子 1399名。

友だちとのかかわりについてたずねたところ、男子に比べ、女子は「一緒に行動する友だちは決まっている」「悩み相談を受ける」の項目で比率が高くなっており、固定的で密接なかかわりがうかがえる。しかし一方で、「『仲のよい友だちでも私のことをわかっていない』

と感じる」や「自分の気持ちと違っていても人が求めるキャラを演じる」といった項目でも男子より比率が高くなっており、友だちには自分の心の内をみせないような側面もみられる。

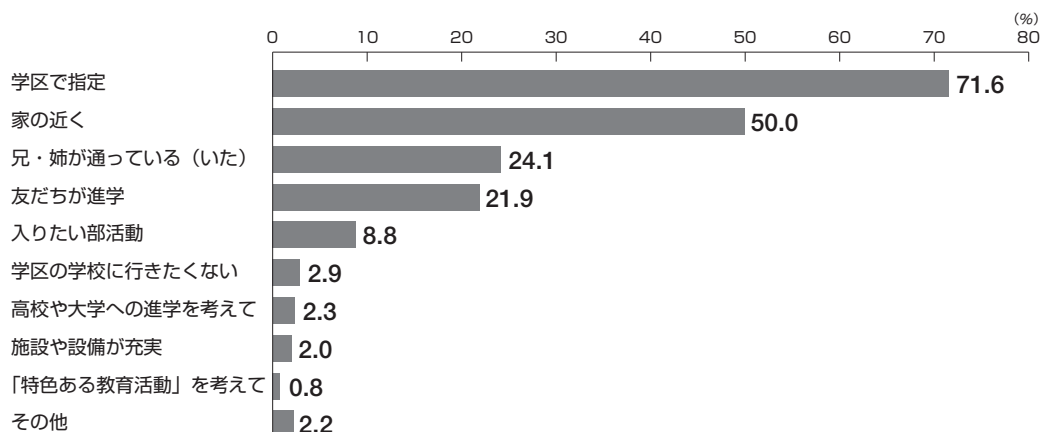
5) 入学理由・卒業後の進路

神奈川県公立中学校に入学してくる生徒の7割は「学区で指定されているから」、5割は「家の近くだから」と回答。主に現在の生活環境を理由に進学している。また卒業後の進路についてたずねたところ、「高校卒業後、大学に進学する」と回答した生徒は44.0%。中学2年生の時点で約半数の生徒が大学進学を考えている。



あなたはどのような理由で、現在通っている中学校に入学しましたか。
(複数回答)

生徒調査

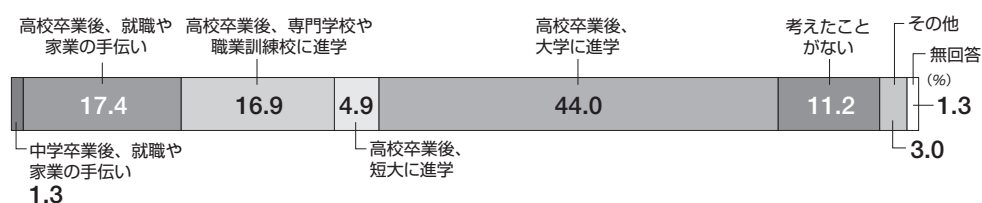


注：サンプル数は2874名。



あなたは、中学校卒業後にどのような進路を考えていますか。

生徒調査



注：サンプル数は2874名。

今の中学校に入学した理由を複数選択でたずねたところ、「学区で指定されているから」と回答した生徒が71.6%と最も高く、つづいて「家の近くだから」と回答した生徒が5割、「兄・姉が通っている (いた) から」や「友だちが進学するから」が2割であった。公立中学校に入学してくる生徒の多くは、自宅の所在地や、兄弟姉妹や友人など自分を取り巻く環境を理由に入学してくる場合が多いことがわかる。ただし「入りたい部活動があるから」(8.8%) など主体的な理由で入学してく

る生徒も一部存在するようである。

また、自分の将来についてどのように考えているのか、中学校卒業後の進路についてたずねたところ (ただし中学2年生時点)、「高校卒業後、大学に進学する」が44.0%で最も多く、専門学校、短大、四年制大学を合わせた高等教育機関への進学希望の回答は65.8%であった。一方、「高校卒業後、就職や家業の手伝いをする」と答えた生徒は17.4%、「考えたことがない」と答えた生徒は11.2%であった。

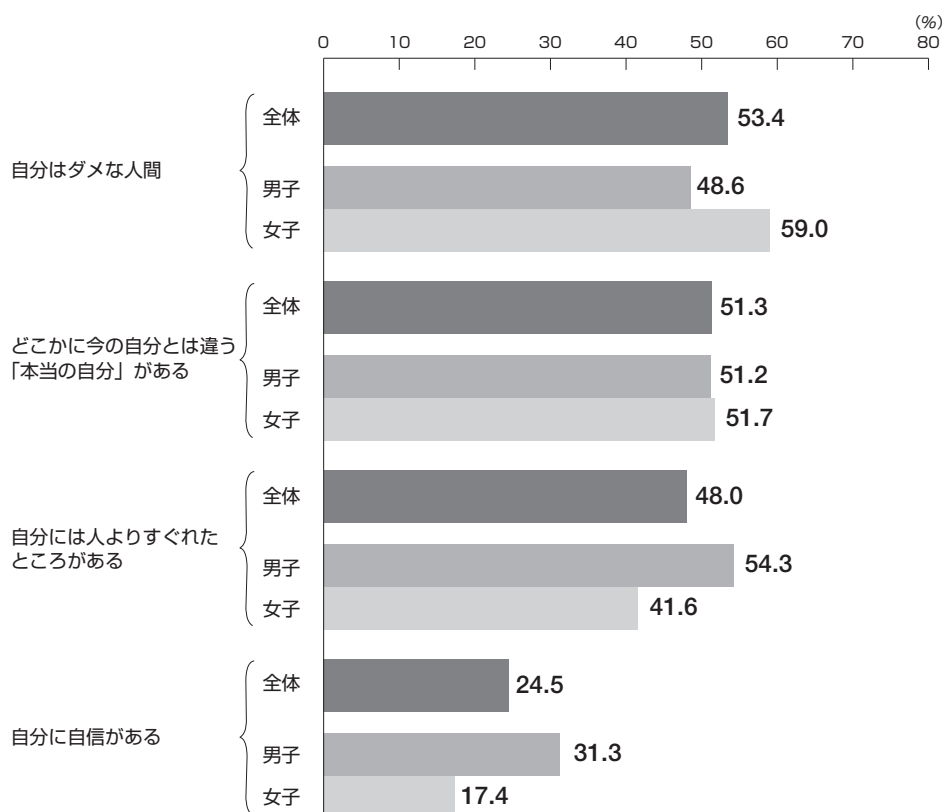
6) 自分自身について

生徒の53.4%が「自分はダメな人間」、51.3%が「どこかに今の自分とは違う『本当の自分』がある」と回答。また性別では、男子は女子に比べ、自己肯定感が高く、自己否定感が低い傾向がみられる。



あなたには、次のことがどれくらいあてはまりますか。

生徒調査



注1：「とてもあてはまる」+「まああてはまる」の%。
注2：サンプル数は全体2874名、男子1452名、女子1399名。

自分自身についてどのように考えているのかをたずねたところ、「自分はダメな人間」と回答した生徒は53.4%で最も多く、次いで「どこかに今の自分とは違う『本当の自分』がある」が51.3%と高い。しかし一方で、「自分には人よりすぐれたところがある」と回答した生徒も48.0%いる。ただし「自分に自信がある」と回答した生徒は約25%にとどまっている。一貫した傾向はみられないが、自己

否定と自己肯定の狭間で揺れ動く、思春期に特徴的な心の揺らぎがみられる。

また、男女別にポイント差をみたところ、「自分はダメな人間」で10.4ポイント、「自分には人よりすぐれたところがある」で12.7ポイント、「自分に自信がある」で13.9ポイントの差がみられ、全体的に男子は女子に比べ、自己肯定感が高く、自己否定感が低い傾向がみられた。

7 保護者の学校に対する期待と満足度

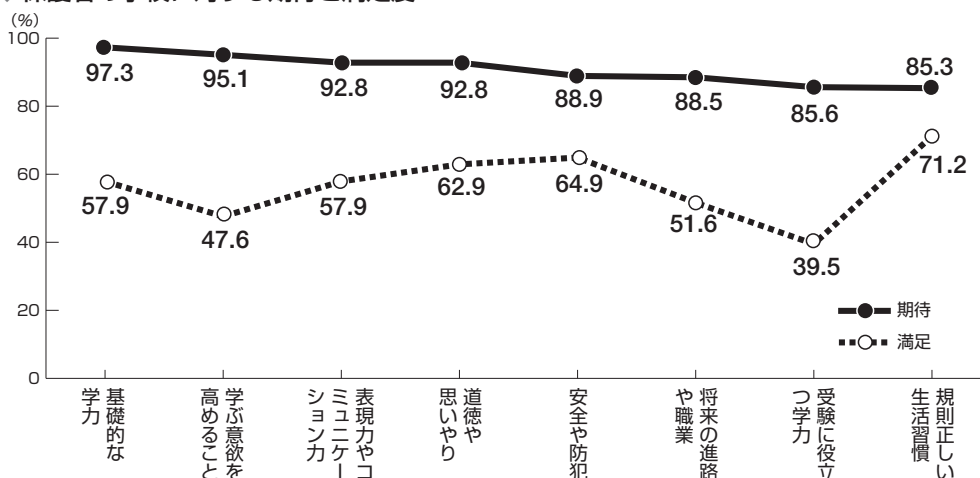
保護者の6～7割が「規則正しい生活習慣を身につけさせること」や「安全や防犯について教えること」「道徳や思いやりを教えること」について満足している一方、「学ぶ意欲を高めること」や、「受験に役立つ学力」では依然、期待と満足度の差が大きいことがわかる。保護者は実に幅広い内容を学校に対して期待している。



あなたは、学校にどのような教育や指導を期待しますか。
あなたは学校の取り組みに対して満足していますか。

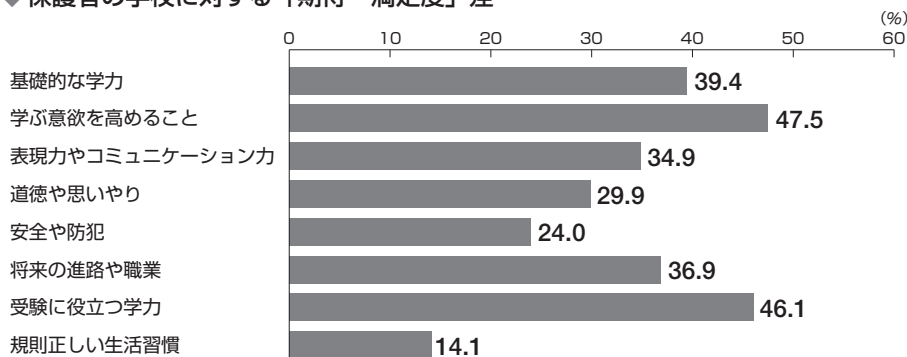
保護者調査

◆保護者の学校に対する期待と満足度



注1：「とても期待する（満足している）」＋「まあ期待する（満足している）」の%。

◆保護者の学校に対する「期待－満足度」差



注2：サンプル数は2411名。

保護者に対して学校への期待と満足度をたずねたところ、保護者の6～7割が「規則正しい生活習慣を身につけさせること」や「安全や防犯について教えること」「道徳や思いやりを教えること」について満足していることがわかった。ただし、期待との差では、「学

ぶ意欲を高めること」(47.5ポイント差)や「受験に役立つ学力」(46.1ポイント差)など、学力や学習意欲に関する項目で依然ポイント差が大きい。保護者は学校に対して実に多様な教育期待を寄せている様子がうかがえる。

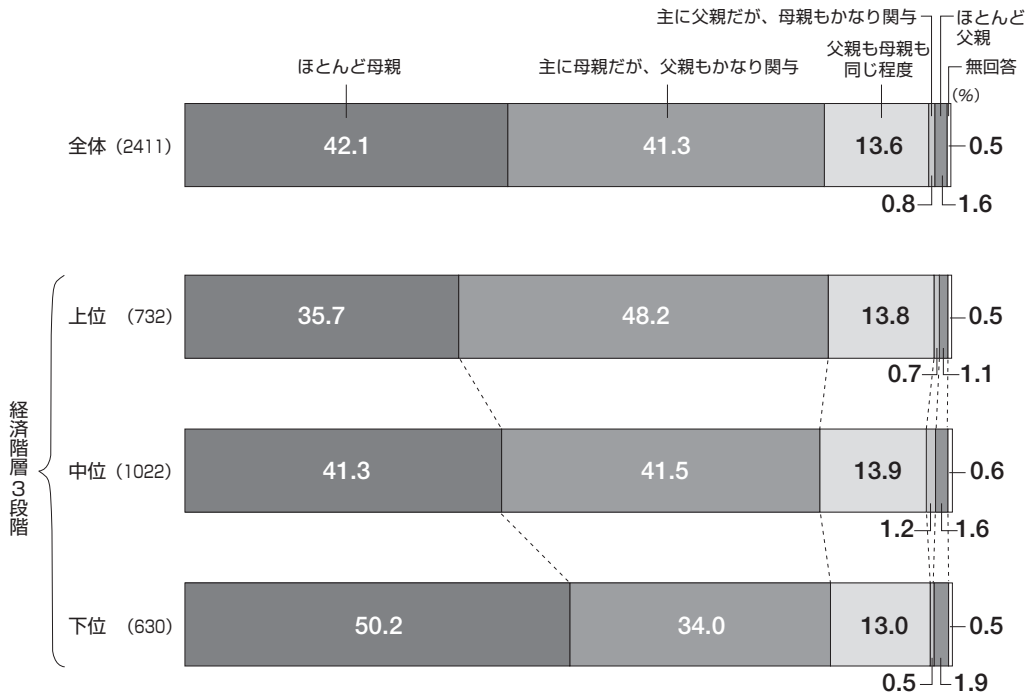
8) 子育ての役割分担

「ほとんど母親」と回答した保護者が42.1%と最も高く、次いで「主に母親だが、父親もかなり関与」が41.3%と高くなっている。また、経済階層が高いほど、父親の子育て参加度が高い。



あなたのご家庭での子育ては、次のうちのどれにもっとも近いですか。

保護者調査



注：() 内はサンプル数。

保護者に子育ての分担についてたずねたところ、「ほとんど母親」と回答した保護者が42.1%と最も高く、次いで「主に母親だが、父親もかなり関与」が41.3%と高くなっている。また「父親も母親も同じ程度」と回答した保護者は13.6%であった。

さらに子育て分担の比率を経済階層別にみたところ、経済階層が高いほど「ほとんど母親」

の比率が低く、父親の子育て関与が高くなっている。階層上位ほど共働きの可能性が高く、必然的に子育てを分担する環境があるのかもしれない。あるいは近年の「イクメン」という言葉に代表されるように育児にかかわる父親のイメージが変化し、積極的に子育てにかかわるような父親が増えているのかもしれない。

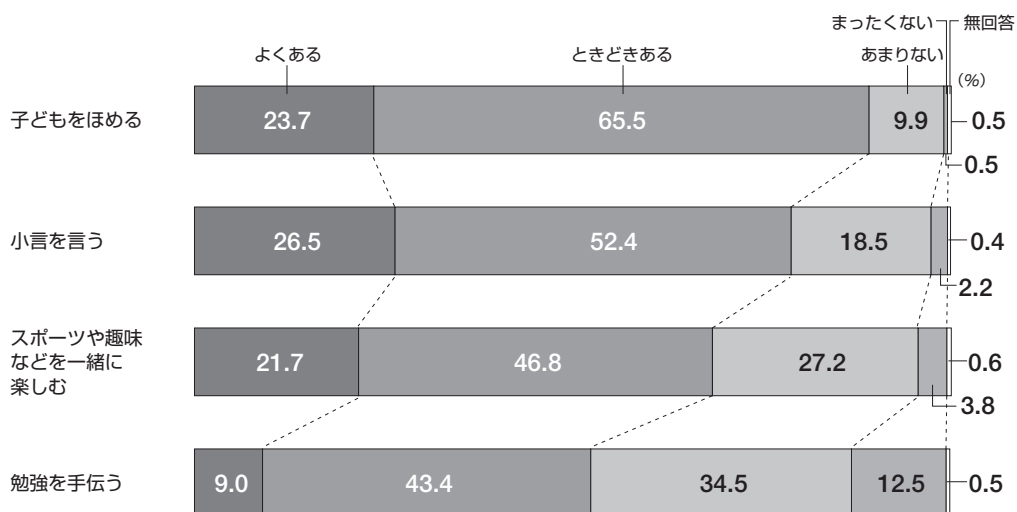
9) 子どもとの接し方

「子どもをほめる」について、89.2%の保護者が「ある」と回答したが、一方で「小言を言う」比率も78.9%と高い。積極的に子どもの良さを認めつつも、不満を口にしてしまう保護者が多いことがわかる。



あなたには、次のようなことがどれくらいありますか。

保護者調査

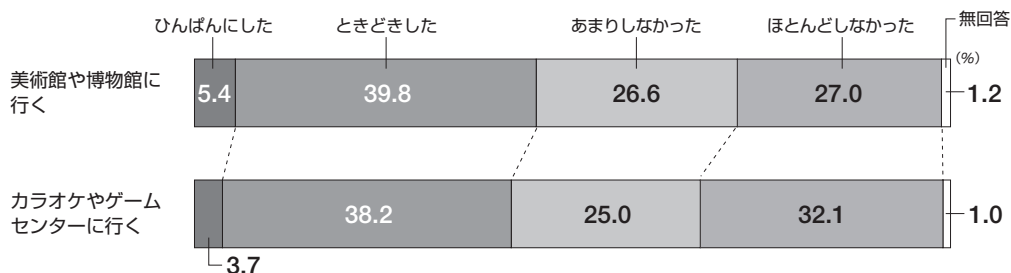


注：サンプル数は2411名。



あなたのお子さんが中学校に入学する前までに、次のことをどれくらい一緒にしましたか。

保護者調査



注：サンプル数は2411名。

保護者が普段子どもとどのように接しているかをたずねたところ、「子どもをほめる」が最も高く、89.2%の保護者が「ある」（「よくある」＋「ときどきある」、以下同）と回答した。しかし一方で「小言を言う」の比率も78.9%と高い。積極的に子どもの良さを認めつつも、不満を口にしてしまう保護者の様子がうかが

える。また、「スポーツや趣味などを一緒に楽しむ」が68.5%、「勉強を手伝う」が52.4%、「美術館や博物館に行く」が45.2%（「ひんぱんにした」＋「ときどきした」、以下同）、さらには「カラオケやゲームセンターに行く」と回答した保護者も41.9%いた。今日の保護者は実に様々なことを子どもとともにやっている。